

2015年3月期 決算説明会

2015年5月13日

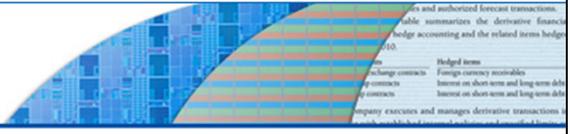
株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高執行責任者 (COO) 垣内 永次

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。



本日のアジェンダ



1. 2015年3月期 連結業績

2. 2015年3月期 セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗（初年度総括）

5. 2016年3月期 業績予想

1. 2015年3月期 連結業績

2. 2015年3月期 セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗（初年度総括）

5. 2016年3月期 業績予想

2015年3月期 連結業績

(単位：億円)	2014/3月期	2015/3月期						
	実績	実績					前期比	2/9予想
	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期	通期
売上高	2,359	524	600	498	753	2,376	16	2,380
SE	1,631	351	406	346	470	1,574	▲56	1,585
GP	521	121	150	121	162	557	35	555
印刷関連機器 (MT)	439	102	127	104	133	467	28	474
プリント基板関連機器 (PE)	82	19	23	17	28	89	7	81
FT	198	49	40	28	119	237	39	230
その他	8	1	1	1	1	6	▲1	10
営業利益	89	22	44	33	70	171	82	150
営業利益率	3.8%	4.3%	7.5%	6.8%	9.3%	7.2%	3.4%	6.3%
SE	87	29	33	40	54	157	69	-
GP	27	4	14	1	7	28	0	-
FT	▲4	▲4	2	▲8	14	3	7	-
その他	▲22	▲6	▲5	0	▲5	▲17	4	-
経常利益	83	23	42	28	67	160	77	142
当期(四半期) 純利益	54	15	31	31	43	121	67	112

*SEはセミコンダクターソリューション事業、GPはグラフィックアンドプレジジョンソリューション事業、FTはファインテックソリューション事業を示しています。

■2015年3月期 通期業績（前期との比較）

>>売上高：2,376億円 前期比16億円増加

・SEは前期に比べ減少したが、GP、FTが前期に比べて増加

>>営業利益：171億円 前期比82億円増加

・前上期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより人件費や研究費などの固定費は増加したが、変動費の削減やSEの製品構成の変化、たな卸資産評価損の減少などにより、営業利益は大幅に増加

>>経常利益：160億円 前期比77億円増加

>>当期純利益：121億円 前期比67億円増加

>>営業利益率：7.2% 前期の3.8%から大幅に改善

>>前期比

(単位:億円)	2014/3月期 通期		2015/3月期 通期		前期比 (増減)	
売上高	2,359	100.0%	2,376	100.0%	+16	+0.7%
営業利益	89	3.8%	171	7.2%	+82	+92.8%
経常利益	83	3.6%	160	6.8%	+77	+91.7%
当期純利益	54	2.3%	121	5.1%	+67	+123.7%

>>前四半期比

(単位:億円)	2015/3月期 3Q		2015/3月期 4Q		前四半期比 (増減)	
売上高	498	100.0%	753	100.0%	+254	+51.1%
営業利益	33	6.8%	70	9.3%	+36	+106.9%
経常利益	28	5.7%	67	8.9%	+38	+137.6%
四半期純利益	31	6.3%	43	5.7%	+11	+36.7%

■2015年3月期通期の連結業績結果

●前期比較

前頁のとおり

■第4四半期(1-3月3カ月間) 連結業績結果

●前四半期比：

>>売上高：753億円 前四半期比 254億円増加

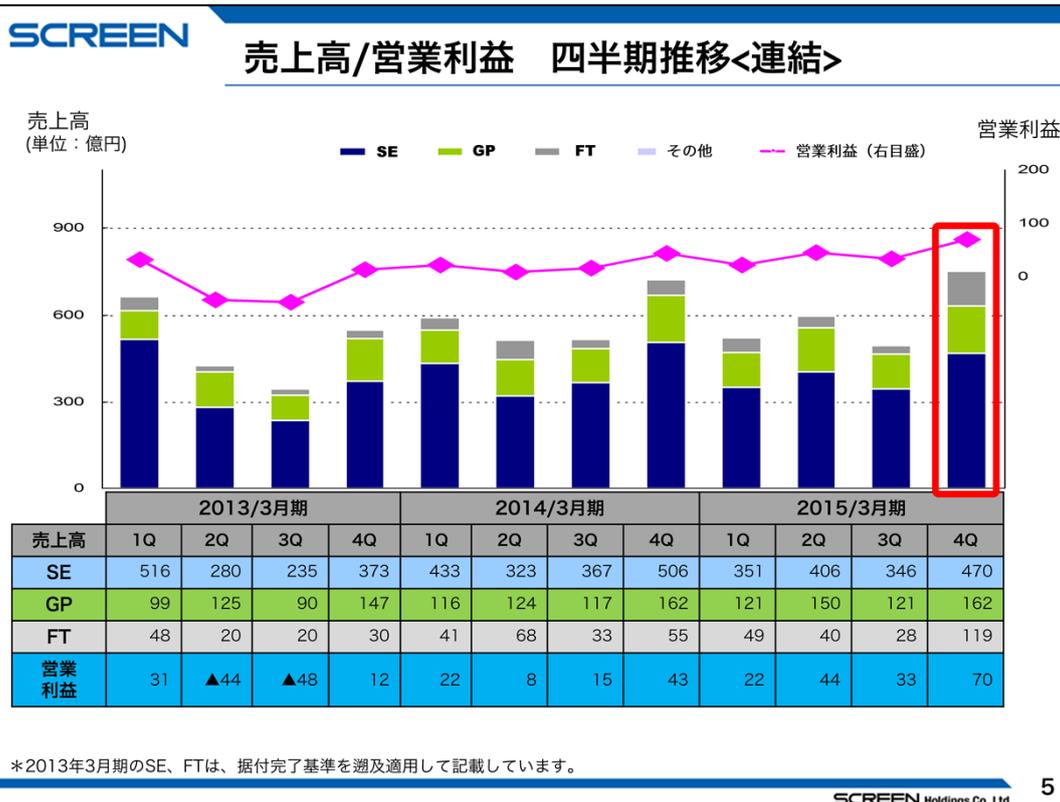
>>営業利益：70億円 前四半期比 36億円増加

前年同期に比べ、固定費は円安影響などにより増加したが、変動費率の大幅改善により大幅増となった

>>経常利益：67億円 前四半期比 38億円増加

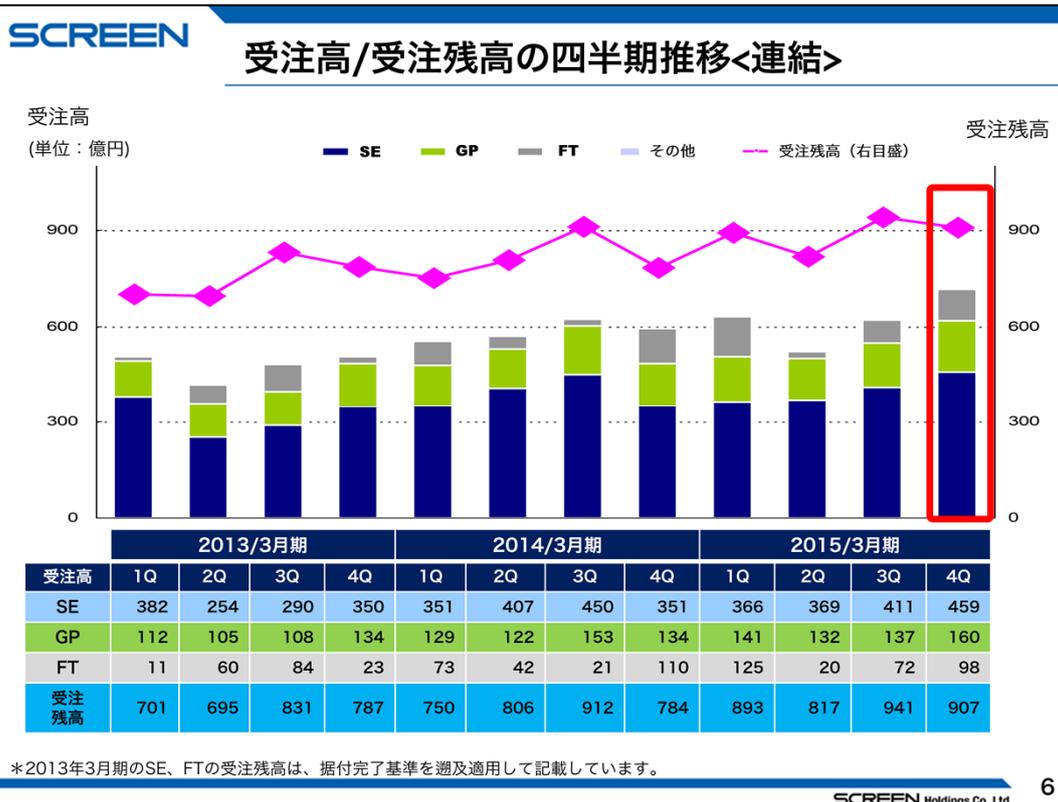
>>四半期純利益：43億円 前四半期比 11億円増加

※営業利益率は、前四半期比6.8%から9.3%に上昇



■売上高と営業利益の四半期推移グラフ

>>第4四半期は、第3四半期から転じて、売上が好調に推移し、変動費率の改善なども寄与し、営業利益も大幅に増加した



■受注高と受注残高のグラフ

>>第4四半期の受注高は、SE、GP、FTともに第3四半期から増加
 全社合計では第3四半期から97億円増加し、717億円となった

>>受注残高は、特に3月分売上が多かったことから第3四半期末から34億円減少し、
 907億円となった

1. 2015年3月期 連結業績

2. 2015年3月期 セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗（初年度総括）

5. 2016年3月期 業績予想

セグメント別 業績概況<SEセグメント>

>>前期比

(単位：億円)

	2014/3月期 通期		2015/3月期 通期		前期比 (増減)	
売上高	1,631	100.0%	1,574	100.0%	▲56	▲3.5%
営業利益	87	5.4%	157	10.0%	+69	+79.7%

>>前四半期比

(単位：億円)

	2015/3月期 3Q		2015/3月期 4Q		前四半期比 (増減)	
売上高	346	100.0%	470	100.0%	+123	+35.5%
営業利益	40	11.8%	54	11.5%	+13	+32.7%

>>トピックス

- 前期比： 減収するも、変動費率改善を進め増益に
- 前四半期比： 売上増により増益。通期で営業利益率10%に
- 受注高： 2月予想を上回り459億円
- 事業環境： ファウンドリーが安定的に投資をけん引、メモリーも順調に投資を拡大
- 2016年3月期の見通し：
暦年2015年のWFEは、前年比+5%前後の成長と見る
収益性改善を継続的に推進

■通期の連結業績結果

●前期比較

>>売上高：1,574億円 56億円減少

→地域別では、国内や欧州、北米が増加したが、アジアの減少をカバーしきれなかった

→製品別では、枚葉式洗浄装置、コーターデベロッパ、バッチ式洗浄装置共に減少

>>営業利益：157億円 69億円増加

固定費は増加したものの、変動費率改善、製品ミックスの変化などにより、大幅増益

■第4四半期(1-3月3カ月間)の連結業績結果

●前四半期比較

>>売上高：470億円 123億円増加

>>営業利益：54億円 13億円増加

売上増による限界利益の増加により増益

>>受注高：459億円 47億円増加

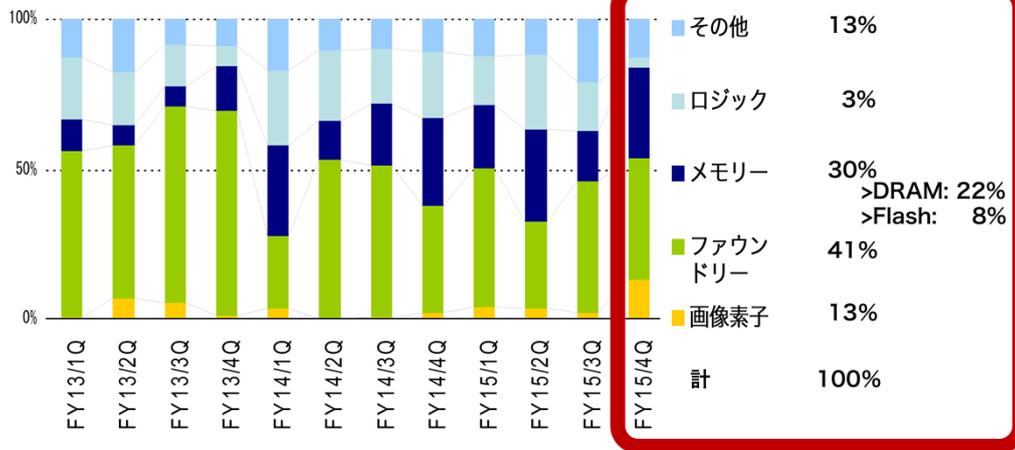
2月時には3Q(411億円)並みを予想していたが、ファウンドリー、メモリー、イメージセンサーなどの受注獲得増により、3Q実績比11.7%増となった

>>事業環境：2015年はファウンドリーが安定して投資をけん引すると予想

受注比率・四半期推移<SEセグメント・デバイス別単独>

>>単独・デバイス別受注比率

*ご参考：連結・受注高（459億円）



>>単独・4Q地域別受注比率



■ SEセグメントにおけるデバイス別受注比率

>>第4四半期実績：

- ・ファウンダリーは、堅調に推移
- ・ロジックは減少するも、メモリーの増加により、3Q比増
- ・携帯用の画像素子が大きく伸長

>>2016年3月期第1四半期受注見通し：

- ・当期第3四半期同水準と予想(400億円強)
- ・ファウンダリーの減少をメモリー、ロジックの増加では補いきれず、10%強減

セグメント別・業績概況<GPセグメント>

>>前期比

(単位：億円)

	2014/3月期 通期		2015/3月期 通期		前期比 (増減)	
売上高	521	100.0%	557	100.0%	+35	+6.8%
営業利益	27	5.3%	28	5.1%	+0	+2.6%

>>前四半期比

(単位：億円)

	2015/3月期 3Q		2015/3月期 4Q		前四半期比 (増減)	
売上高	121	100.0%	162	100.0%	+41	+33.9%
営業利益	1	1.3%	7	4.7%	+6	+397.5%

>>トピックス

- 前期比： 国内、欧州を中心にCTP、PODの需要回復により、増収微増益
- 前四半期比： 売上増加、収益率は改善
- 事業環境： 国内は、CTP更新需要が好調
海外は、米国を中心にPODが堅調、欧州はPODの販売伸長
- 2016年3月期の見通し：
研究開発費は増加させるも、増収効果もあり、収益性改善の見込み

■GPセグメントの業績概況（通期）

●前期比：35億円増加

>>売上高：557億円

→地域別： 国内と欧州が若干増加

国内、CTP更新需要が好調、今期も継続の見込み

欧州、CTPが増加、PODも伸長。PODの販売拡大に期待

>>営業利益：通期比では前期同水準で横這い

→プロダクトミックスの影響と、研究開発と固定費増加

●前四半期比：

>>売上：41億円増え、営業利益：大きく改善

●今後の見通し： 今期は将来に向けた研究開発は増加するも、

→良好な足下の環境により、収益性は改善を見込む

→収益性改善には、PEセグメントの主要製品・直接描画装置のLediaの
販売拡大が寄与できると予想

セグメント別・業績概況<FTセグメント>

>>前期比

(単位：億円)

	2014/3月期 通期		2015/3月期 通期		前期比 通期	
売上高	198	100.0%	237	100.0%	+39	+19.8%
営業利益	▲4	▲2.1%	3	1.4%	+7	-

>>前四半期比

(単位：億円)

	2015/3月期 3Q		2015/3月期 4Q		前四半期比 (増減)	
売上高	28	100.0%	119	100.0%	+91	+325.5%
営業利益	▲8	-31.9%	14	12.0%	+23	-

>>トピックス

- 前期比： 増収増益、4期振りの黒字化。中国向けTV用大型液晶パネル用装置に加えて、スマホ向け中小型液晶パネル用装置の売上が順調
- 前四半期比： 原価低減およびポストセールス（改造）により、営業利益が大きく改善
- 受注高： 2月予想水準の98億円。今後も大型、中小型ともに好調継続見込み
- 事業環境： 中国向けTV用大型装置に加えて、中小型への投資が継続
中国に加え、日本、台湾での投資堅調
- 2016年3月期の見通し：
3月末の受注残高279億円を確保。当面堅調

■FTセグメントの業績概況（通期）

>>売上高：237億円

- 前期比：39億円増加

→地域別：中国に加え、国内、台湾も増加

→製品別：G8サイズ・大型TV用がもっとも増加

>>営業利益：3億円

- 前期比：7億円増加（前期：4億円赤字）、通期では4期振りの黒字化

→固定費は若干増加するも、売上増加により限界利益が増加

■FTの第4四半期の業績概況

>>売上高：119億円

- 前四半期比：91億円増加

→地域別：中国が最も多い

→製品別：主力のコーターデベロッパが90%強、サイズ別ではG8、大型TV用

>>営業利益：14億円

- 前四半期比：23億円増加

→固定費は若干増加するも、売上増加により限界利益が増加

→ポストセールスが収益性向上に寄与

>>受注高：98億円

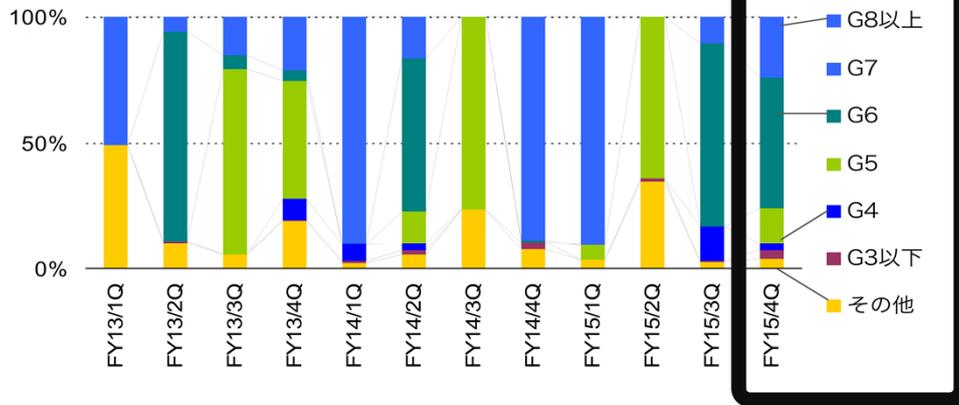
- 前四半期比：26億円の増加

→2月予想：100億円弱、ほぼ予想どおりに着地した

受注比率・四半期推移<FTセグメント・世代別単独>

>>単独・製品サイズ別受注比率

*ご参考：連結・受注高（98億円）



>>単独・4Q地域別受注比率



■FTセグメントのガラス基板サイズ別受注

>>第4四半期実績：98億円

- ・ 2月想定（100億円弱）どおりの規模に着地
- ・ 台湾や日本で中小型パネル向けにG6の投資がけん引

>>第1四半期見通し：140億円前後

- ・ 中国での大型TV用および中小型向け投資に加え、国内の中小型が好調

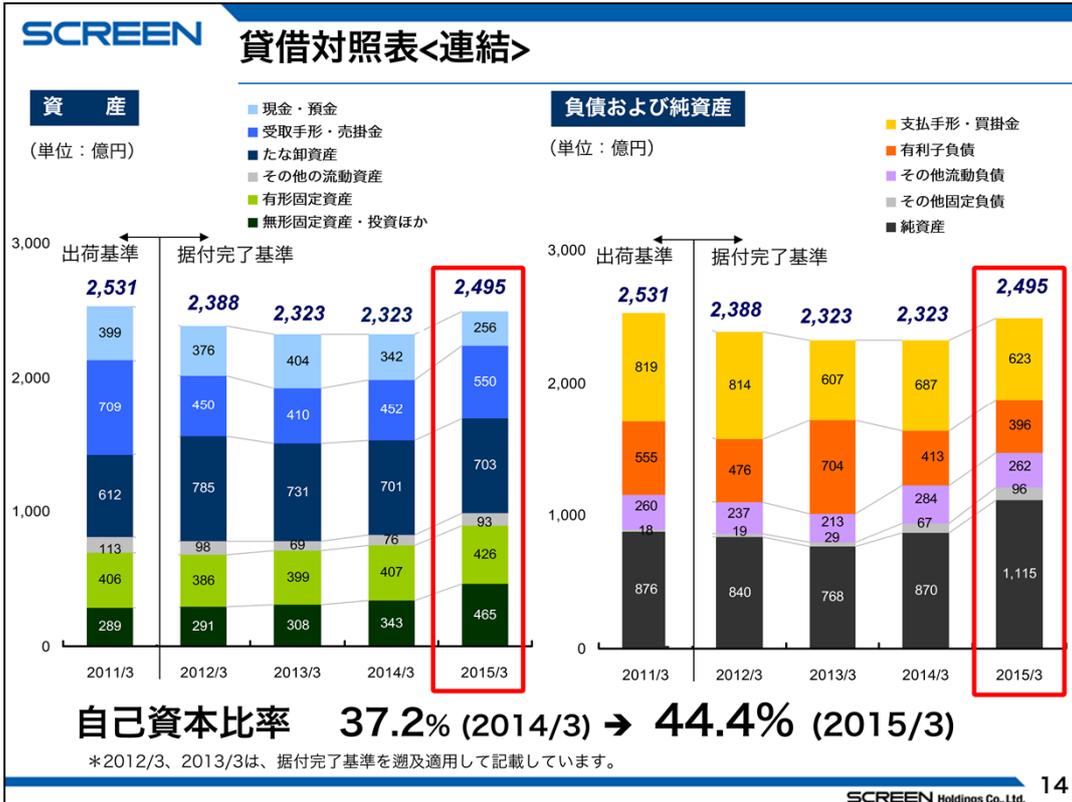
1. 2015年3月期 連結業績

2. 2015年3月期 セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗（初年度総括）

5. 2016年3月期 業績予想

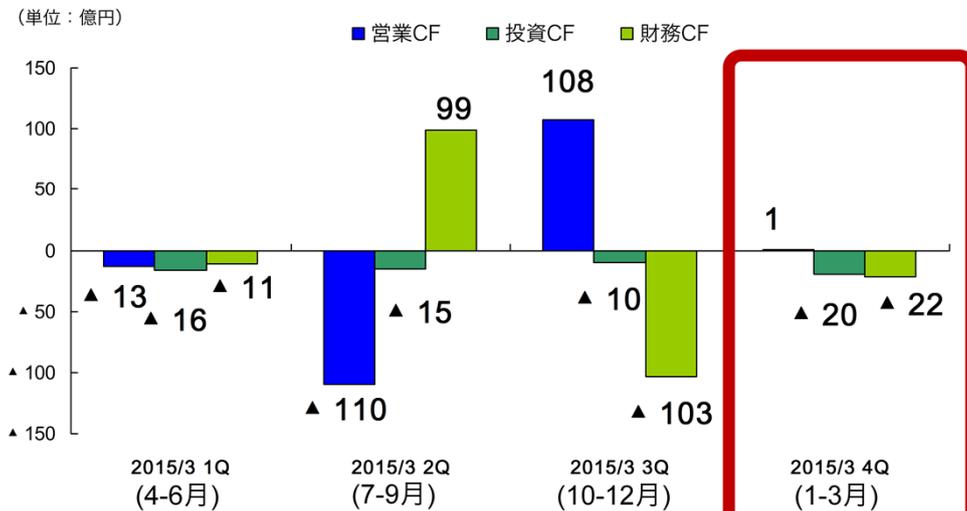


■2015年3月末 貸借対照表

- 資産合計：2,495億円（前期末比171億円増加）
現金及び預金は減少したが、受取手形及び売掛金、保有株式の時価上昇に伴い投資有価証券が増加
- 負債合計：1,380億円（前期末比73億円減少）
支払手形及び買掛金、有利子負債の減少
有利子負債に関しては、借入金が増加する一方、社債を償還したことにより減少
- 純資産合計：1,115億円（前期末比244億円増加）
当期純利益の計上や保有株式の時価上昇および円安の影響により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定がそれぞれ増加
- 当期末の自己資本比率：44.4%（前期末比7.2ポイント上昇）

キャッシュ・フロー<連結>

>>通期累計 フリーキャッシュ・フロー： ▲78億円



■キャッシュ・フロー

●営業活動によるキャッシュ・フロー：

第4四半期(1～3月)では、税金等調整前当期純利益、たな卸資産の減少などの収入項目が売上債権の増加や仕入れ債務の減少などの支出項目を上回ったことから、1億円の収入

●投資活動によるキャッシュ・フロー：

第4四半期(1～3月)では、研究開発設備などの有形固定資産を取得したことなどにより、20億円支出

●財務活動によるキャッシュ・フロー：

第4四半期(1～3月)では、長期借入金の返済を進めた結果、22億円の支出

なお、2015/3月期 通期（12カ月）のキャッシュ・フローは下記のとおり

営業活動によるキャッシュ・フローは、14億円の支出

投資活動によるキャッシュ・フローは、63億円の支出

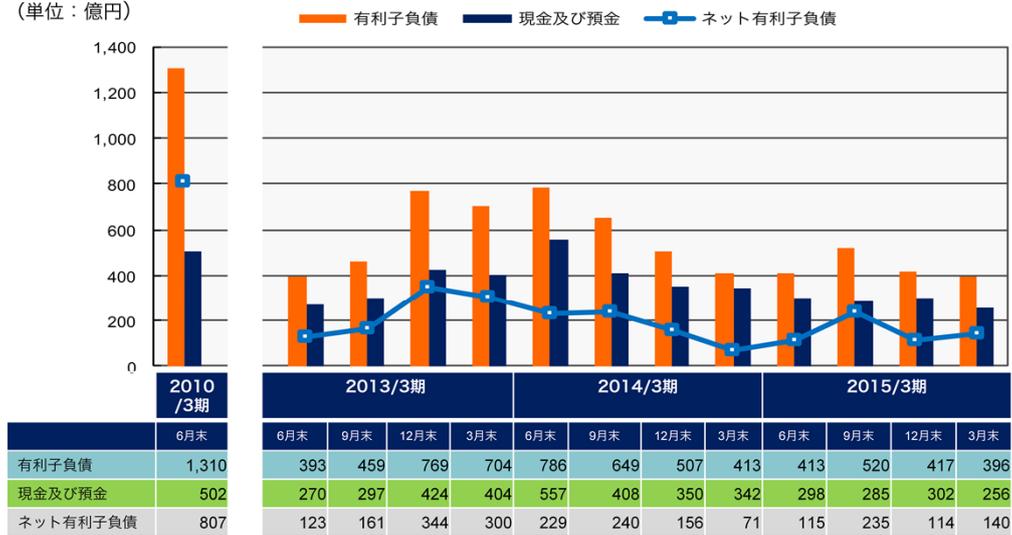
財務活動によるキャッシュ・フローは、38億円の支出

以上の結果、

●当期末における現金及び現金同等物残高：219億円

有利子負債推移<連結>

(単位：億円)



■有利子負債推移

- 当期末有利子負債：396億円（前期末に比べ16億円減少）
- 有利子負債から、現金及び預金を除いた純有利子負債：140億円（前期末に比べ68億円増加）

1. 2015年3月期 連結業績

2. 2015年3月期 セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗 (初年度総括)

5. 2016年3月期 業績予想

中期3カ年経営計画と方向性

■目指すべき方向性

- 高収益体質へ
- 新規領域での事業化
- 財務体質強化

3つの目標：

- ①収益構造改革：最終年度の営業利益率10%以上
- ②新規事業創出：4つの新規事業領域で黒字化
- ③財務体質の強化：最終年度の自己資本比率50%以上

強いものをさらに強く

■新中期3カ年経営計画「Challenge2016」の前提と方向性

(2015/3月期～2017/3月期)

●初年度の振り返り

>>目指すべき方向性は次の3つの事項

→高収益体質へ

→新規領域での事業化（よりバランスのとれた事業ポートフォリオ向け新規分野での事業化）

→財務体質強化（市況変動に耐えられる財務体質の強化を目指す）

●方向性を見据えた3つの目標：

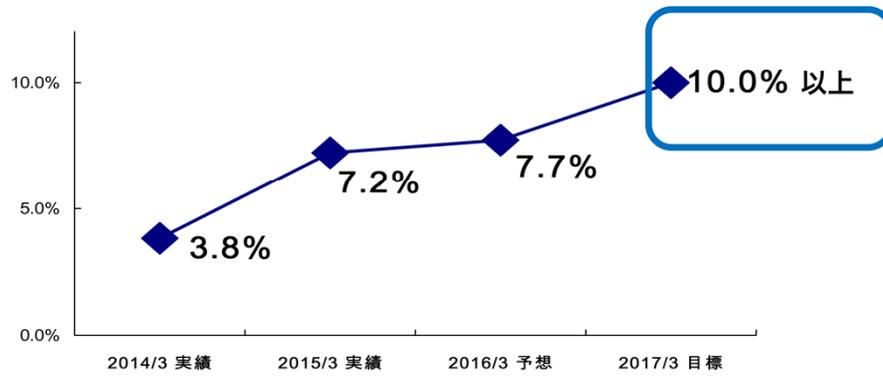
>>「強いものをさらに強く」

①収益構造改革：最終年度の営業利益率10%以上

②新規事業創出：4つの新規事業領域で黒字化

③財務体質の強化：最終年度の自己資本比率50%以上

目標①：収益構造改革：最終年度の営業利益率10%



- 各事業の主要製品の変動費率改善（必ずやり抜く！）
- 高付加価値製品群とポストセールスの売上比率向上
- 損益分岐点売上高の低減を徹底

目標②：新規事業創出（4つの新規事業領域で黒字化）

>>2015年4月、新たな組織をHD内に発足（開発＋営業＋マーケティング）
開発拠点・ホワイトキャンバス洛西に集約

ライフサイエンス

→ 最も先行。リリース製品は順調

>>iPSポータル社に出資（2015年3月期）
再生医療分野での商品開発を加速

>>Cell³iMager販売、欧米日で販売網確立
3D細胞培養対応スキャナー

>>DP-i3000（インクジェット式
錠剤印刷機）、4月より受注開始



■目標②：新規事業創出（4つの新規事業領域で黒字化）

>>新規事業創出に向け、4つの分野を想定

- ・ ライフサイエンス
- ・ 検査計測
- ・ プリントドエレクトロニクス（超精密印刷）
- ・ エネルギー

→早期事業化を目指し、開発、営業、マーケティングの人員を
開発拠点「ホワイトキャンバス洛西」に集約、
大きく組織を改編

→この中で最も先行しているのがライフサイエンス：

- ・ iPSポータル社に出資（2015年3月期）
関連企業や医療機関とのネットワークを強化し、再生医療分野での商品
開発を加速

- ・ 製品化：既存で2機種

→3D細胞培養対応、細胞スキャナーであるCell³iMager販売、欧米日で販売網を
確立。米国癌研究の権威MDアンダーソンがんセンターでの評価を受け、販売開始
国内での販売チャンネルとして島津製作所とコラボレーション開始

→インクジェット式錠剤印刷機「DP-i3000」

4月より受注開始、顧客の評価を受けながら、拡販を図る

目標②：新規事業創出（4つの新規事業領域で黒字化を目指す）

検査計測

IM-3100（鍛造部品自動外観検査装置）
車載部品市場で好評、
上市フェーズへ

プリント
エレクトロニクス

ビジネスモデルの多角化に向けて、プロセス
技術開発、製品開発が進捗中

Printro/I/nics

エネルギー

車載用二次電池（リチウムイオン
バッテリー）、その他の塗工分野に
も展開中

■目標②：新規事業創出（4つの新規事業領域で黒字化）

>>検査計測：鍛造部品自動外観検査装置「IM-3100」

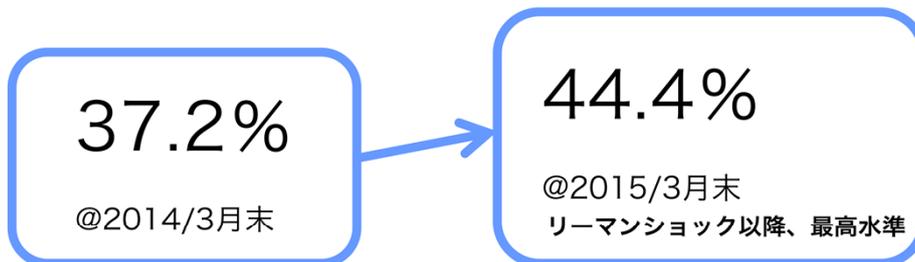
昨年秋にホワイトキャンパス洛西で内覧会を開催し、顧客ニーズを確認しながら、
現在、上市に向けた準備段階まで進捗

>>プリントエレクトロニクス（超精密印刷）：さまざまなアプリケーション向けに、
プロセス技術開発を進め、組織改編によりスピードアップを図っている

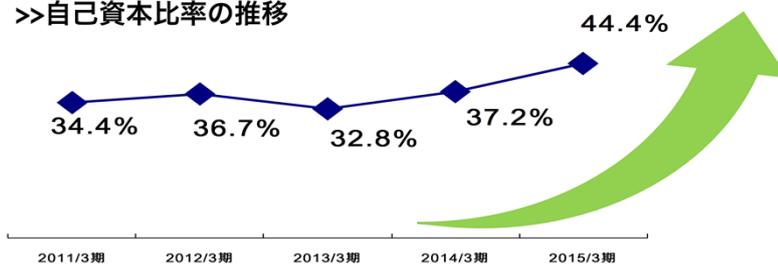
>>エネルギー：将来はFTの新規事業ポートフォリオ変革に寄与するとみる

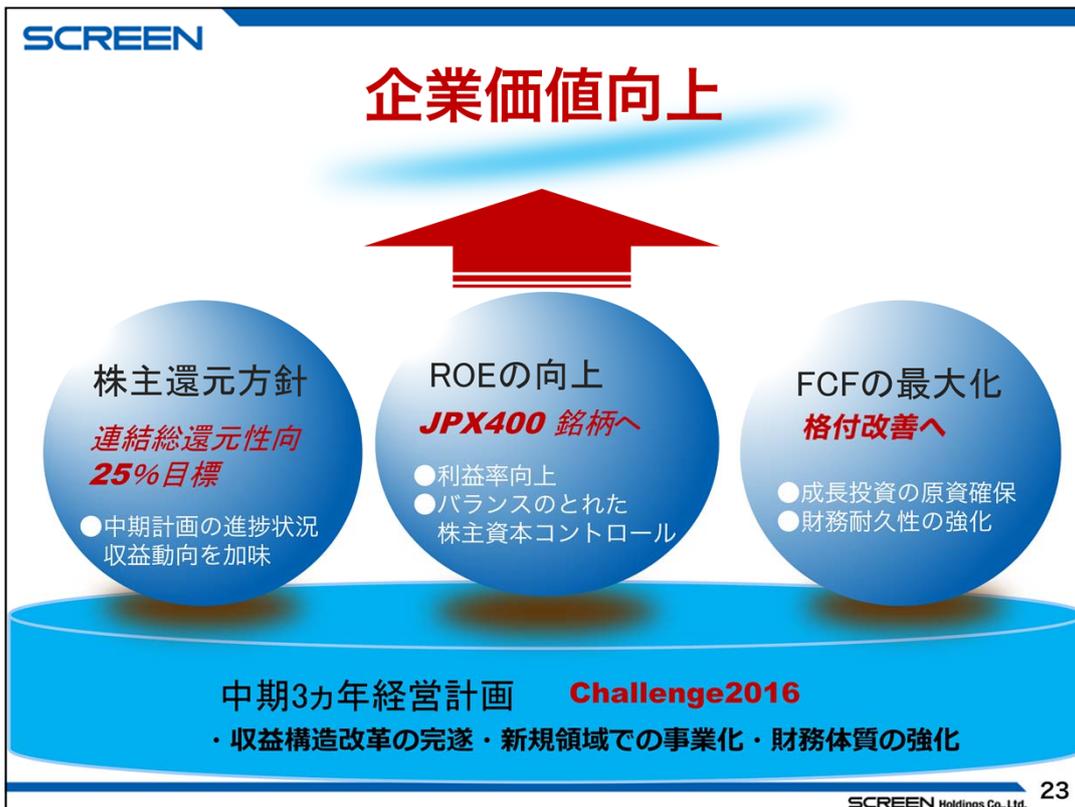
→FTの得意分野であるコーティング技術を応用し、車載用燃料電池、二次電池、
リチウムイオンバッテリーなどに応用の範囲を広げていく

目標③：財務体質の強化：最終年度の自己資本比率50%以上



>>自己資本比率の推移





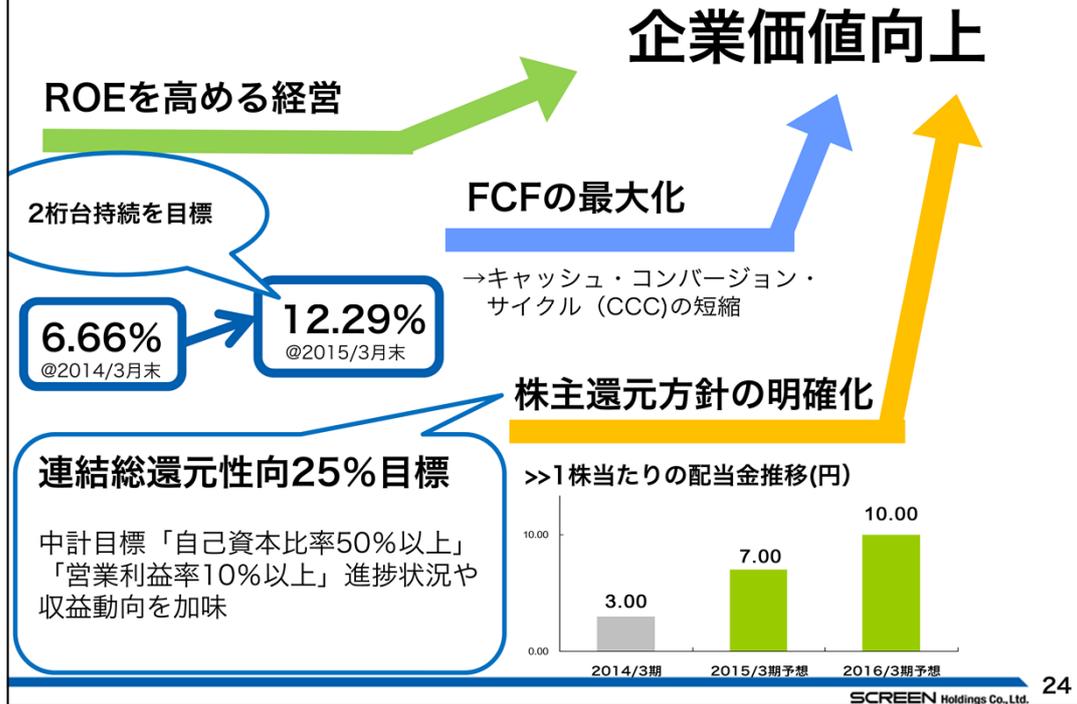
■企業価値向上に向けて

新経営体制になって、「中期経営計画」から一段と高い概念として「企業価値向上」を目指すプログラムを策定

>>中期経営計画は、達成に向け、愚直にしっかりと進行中

>>上記に加えて、
 ROEを高める経営、FCFの最大化を進め、JPX日経400の組み入れ、格付けの上昇を目指し、企業価値向上

>>さらには、
 株主還元策を3月20日に発表
 中期経営計画が掲げる「自己資本比率50%以上」「営業利益率10%以上」を達成後に、連結総還元性向25%を目指す



■企業価値向上に向けて：

- ・「ROEを高める経営」を目指し、
2015年3月期は12.3%を達成。今後も2桁台を継続させたい
- ・「FCFの最大化を目指し、
SE業界のボラティリティの高さを鑑み、手元資金の厚みは必要
→キャッシュ・コンバージョン・サイクル (CCC)の短縮化を実施し、
在庫圧縮を通じた、運転資本の最適化を図っている

1. 2015年3月期 連結業績

2. 2015年3月期 セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 中期3カ年経営計画「Challenge2016」の進捗（初年度総括）

5. 2016年3月期 業績予想

2016年3月期業績予想

(単位：億円)	2015/3期			2016/3期		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想
売上高	1,124	1,251	2,376	1,300	1,180	2,480
S E	757	816	1,574	835	765	1,600
G P	272	284	557	295	295	590
F T	90	147	237	165	105	270
その他	3	3	6	5	15	20
営業利益	67	104	171	93	97	190
営業利益率	6.0%	8.3%	7.2%	7.2%	8.2%	7.7%
経常利益	65	95	160	88	97	185
当期純利益	46	74	121	68	72	140

●想定為替レート>> 1米ドル=115円、1ユーロ=130円

●年間配当金予想>> 期末配当1株当たり10円

注：SEはセミコンダクターソリューション事業、GPはグラフィックアンドプレジジョンソリューション事業、FTはファインテックソリューション事業を示しています。

■2016年3月期業績予想

- ・売上高 : 2,480億円(前期比 103億円増)
- ・営業利益 : 190億円(前期比 18億円増 営業利益率：7.2%→7.7%)
- ・経常利益 : 185億円(前期比 24億円増)
- ・当期純利益 : 140億円(前期比 18億円増)

※配当金に関しては、3円増配し、1株あたり年間10円を予想

Challenge2016>> 2年目の重点テーマ

●収益構造改革の推進：損益分岐点売上高の低減、営業利益率向上

- SE>> 変動費率改善、ポストセールスの強化、フロンティア製品の拡販
- GP>> 市場投入したPOD新製品の欧米での拡販、循環型ビジネスモデルの強化
- FT>> 事業ポートフォリオの転換、新規事業の本格立ち上げ、
ポストセールス拡大

●財務体質強化：

在庫圧縮を含む運転資本の最適化によるFCFの最大化、資産効率の向上（政策保有株式の流動化を含む）により自己資本比率のさらなる向上

●株主総還元性向：方針どおり、目標は25%達成を目指す

●新規事業分野：研究開発や新規ベンチャー企業へ積極的な投資

SCREEN

Fit your needs, Fit your future

